

学生優秀発表賞受賞者：山根 知 演題番号 106

日和見感染起因菌の内因性血液感染機構の解析 —腸管上皮細胞層透過活性と運動性—

山根 知*¹ 長田 祥弥*¹ 國方 千菜美*¹
安田 仁*² 尾島 優志*² 亀山 妙子*³
平内 美仁*³ 末澤 千草*² 奥田 潤*^{2§}

I. 研究の概要

【目 的】

緑膿菌は自然界に広く分布するグラム陰性桿菌である。健常者には病原性の低い弱毒菌の一つであるが、易感染性宿主においては病原性を示し、呼吸器感染症、尿路感染症、敗血症などを引き起こす日和見感染起因菌である。内因性血液感染とは経口摂取された緑膿菌が宿主の腸管内に定着した後、宿主の免疫力低下により、腸管上皮細胞層を透過した本菌が、血管・リンパ管へ移行することにより全身性敗血症やほかの組織への転移が起こることである。これまでの研究結果により、運動性が本菌による腸管経由内因性血液感染の病原因子として重要であることが報告されている。以上のことから、運動性の腸管経由内因性血液感染への寄与に関する検討を行った。

【方 法】

研究対象として、緑膿菌の臨床分離株を使用し、腸管上皮細胞層透過活性と運動性との関連性を検討した。

【結果と考察】

腸管上皮細胞層透過活性試験の結果、透過活性

を示す株が多かった。また運動性試験の結果に関しても運動性を示す株が多かった。

以上の結果から、緑膿菌の臨床分離株において腸管上皮細胞層透過活性と運動性に相関がみられることが考えられた。

II. 受賞の感想

この度は第 11 回臨床検査学教育学会学術大会において学生優秀発表賞という栄誉ある賞を頂き、大変光栄に思っています。このような素晴らしい賞を頂いたのも、奥田 潤教授のご指導の賜物だと思っております。本学会は、私が人生で初めて発表させて頂く学会であり、右も左も分からず非常に緊張しましたが、大きな自信と励みになりました。また、同世代の研究を行っている多くの方々の意見を拝聴できたことや、演題発表の際に諸分野の先生方から有意義な意見を伺うことができ、この上ない貴重な経験をすることができました。今後もこの受賞を糧に、より一層研究に励んでいこうと思います。

III. 将来への抱負

本学会を通して、自分の研究分野以外にも興味

*¹ 香川県立保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻

*² 香川県立保健医療大学保健医療学部臨床検査学科 §okuda@chs.pref.kagawa.jp *³ 香川県立中央病院中央検査部

を持つことができ、視野を広げることができました。今後はこれまでの研究をより深めるべく、菌株数を増やし、腸管上皮透過活性と運動能の関連性をより明確にしていこうと考えています。

臨床検査技師も国際化が進んでいくことが考えられます。そのような中でも通用し、強いリーダーシップを発揮できる臨床検査技師を目指して日々精進していこうと思います。